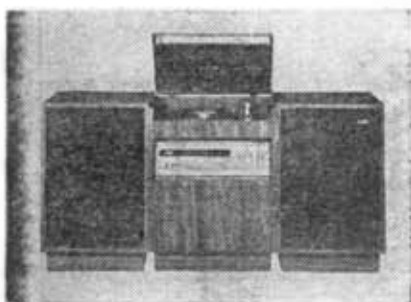


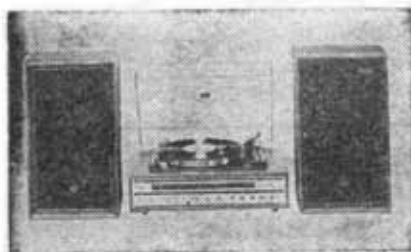
# 新製品紹介

## 1. MCSS 方式セパレート・ステレオ

### 〈ビクター SSL-4500D 型〉



### 〈ビクター MSL-3MS 型〉



ビクターの Multi Channel Source System については詳しい説明は不要と思うが、マルチ・アンプ方式で全音域に歯切れのよいサウンドを作り出すとともに、4ソース方式への発展性を備えている。11月2日に発売されるビクター SSL-4500D 型、MSL-3MS 型は、いずれもこの MCSS 方式を採用し、スピーカー・バツフルと4チャンネル・テープ・デッキを追加するだけで、4チャンネル・ステレオとなる。

メイン・アンプは両者とも SEA 内蔵の準コンプリメンタリー全段直結方式で総合出力 70W。プレーヤー部は4極シンクロナス・モーターのベルト・ドライブ・カートリッジは前者がMM型、後者がSS型となっている。スピーカー部は同社新開発の KP-3 コーンで前者が3ウェイ、

後者が2ウェイである。

なお、MSL-3MS 型に追加用のスピーカー・バツフル (MSBU-3MS) も同時に別売され、また、これと MSL-3MS と組合わされたものが、SEA-30M として発売される。

¥105,000 (MSL-3MS)

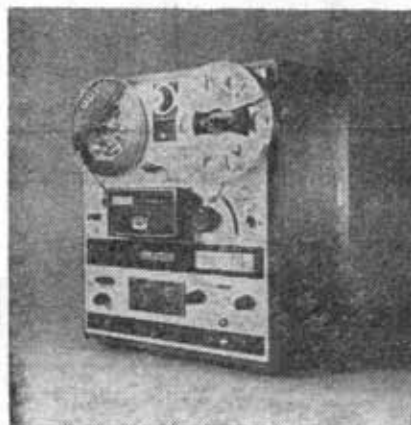
¥30,000 (MSBU-3MS)

¥135,000 (SEA-30M)

¥123,000 (SSL-4500D)

## 2. プロフェッショナル・ステレオテープ・デッキ

### 〈アカイ GX-365D〉



従来の録音・再生ヘッドには、バーマロイがコアに、メタリック・フォイルがギャップに使用されていたが、この GX-365D は新開発のグラス&クリスタル・フェライト・ヘッドが採用されている。そのため、ヘッドはゴミを吸収しないばかりでなく、優れた耐久性をもち、またバイアス電流に影響されずに録音・再生をおこなうことができる。

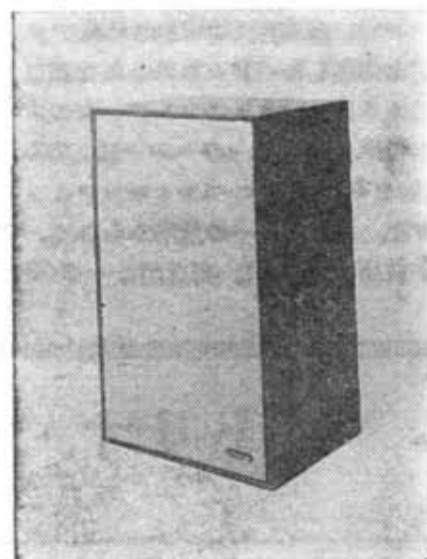
[おもな規格] テープ速度=1 $\frac{7}{8}$ IPS, 3 $\frac{3}{4}$ IPS, 7 $\frac{1}{2}$ IPS (15IPS は付属アダプターにて使用可), ワウ・フラッター=0.04% RMS 以下 (7 $\frac{1}{2}$ IPS), 0.07% RMS 以下 (3 $\frac{3}{4}$ IPS), 0.14% RMS (1 $\frac{7}{8}$ IPS), 周波数特性=30

~28,000Hz $\pm$ 3dB, 30~23,000Hz $\pm$ 3dB, 30~12,000Hz $\pm$ 3dB (同順), SN比=55dB以上, 50dB以上, 50dB以上(同順), 全高調波歪=1.5%以下, 3.0%以下, 3.0%以下(同順, すべて1,000Hz 0VU 録音の場合。

¥146,000

## 3. 3ウェイ・スピーカー・システム

### 〈パイオニア CS-E700〉



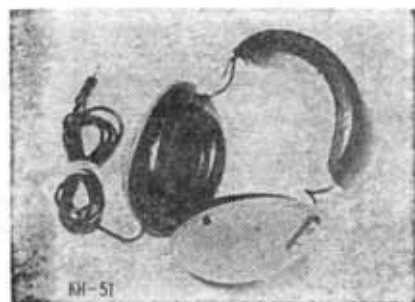
話題のFB (フリー・ビーティング) 方式を採用した強力ウーファー、12cm ミッドレンジ・スピーカー、指向特性の抜群なマルチ・セルラー・ホーン・スピーカーによる完全密閉型スピーカー・システム。

[規格] 使用スピーカー=低音 30cm コーン型, 中音 12cm コーン型, 高音 マルチ・セルラー・ホーン, 入力インピーダンス=8 $\Omega$ , 再生周波数帯域=35~20,000Hz, 出力音圧レベル=93.5dB/W (旧 JIS 99.5dB/W) 最大入力=60W, クロスオーバー周波数=低・中音 500Hz, 中・高音 5,000Hz, 外形寸法=660(H)  $\times$  380(W)  $\times$  300(D)mm, 重量=16kg. ¥35,000

# 新製品紹介

## 4. ステレオ・ヘッドフォン

〈トリオ KH-51型〉



ヘッドフォンに関しては「再生音像が頭上に感じられて不自然、重くて圧迫感があるので疲れやすい」という難点を指摘する人が多いようだ。トリオが12月に発売する KH-71 型、51型(写真)、41型、三種のヘッドフォンはこれらの難点を解決したといっても過言ではないと思われる。

パッドを圧着しなくとも低域が充分に出るようにユニットの背面を開放にし、新開発の  $f_0$  の低いスピーカー・ユニットを使用しているのので、頭上で鳴る感じがなくなり、軽量設計 (425g~460g) でもあるので、圧迫感からも解放されることになった。

¥10,000 (KH-71型)

¥ 5,500 (KH-51型)

¥ 3,300 (KH-41型)

## 5. ダブル・コーン・ステレオ・ヘッドフォン

〈NAPOLEX WIDE-40〉



新設計のLWC式ダブル・コーン・スピーカーを使用して、従来のヘッドフォンにありがちな低音不足を解決している。高周波歪、混交調歪、過渡歪もすぐれており、再生表現力

は抜群といえる。また左右のボリュームを本体からはずすことによって軽量化に成功しているのので、長時間用ヘッドフォンとして最適といえる。姉妹品に WIDE-70, WIDE-10 がある。

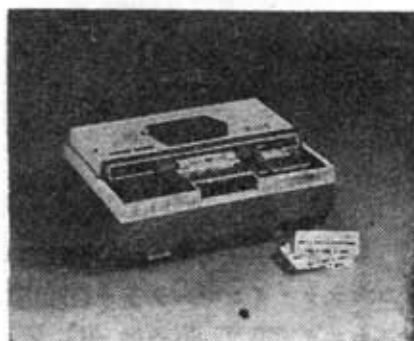
[規格] インピーダンス=4~16 $\Omega$ , 周波数範囲=20~21,000Hz, 最大入力=0.5W, スピーカー=67m/mダブルコーン, 重量=390g.

¥7,500 (WIDE-70)

¥5,800 (WIDE-40)

¥3,950 (WIDE-10)

## 6. ステレオ・カセット・テープ・デッキ 〈アカイ CS-50D〉

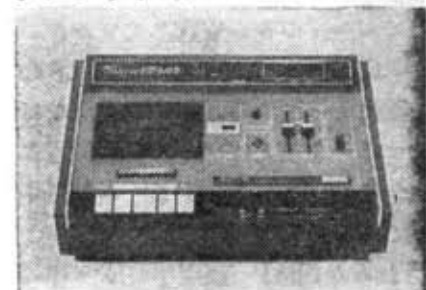


これまで、カセットのリバースはテープ走行に用いられるメカニズムを逆転させておこなっていたが、周波数特性、ワウ・フラッター、SN比の劣化をまねくおそれがあった。アカイではカセット自体を反転させる自動反転機構を開発し“INVERT-O-MATIC”と名づけた。CS-50Dはこの“INVERT-O-MATIC”を採用し、正逆両方向走行時とも、まったく安定した諸特性を得ることに成功している。

[おもな規格] トラック方式=4トラック2チャンネル・ステレオ方式、テープ・スピード=4.75cm/sec (1 $\frac{7}{8}$ IPS), ワウ・フラッター=0.2% RMS以下, 周波数特性=30~16,000Hz ( $\pm 3$ dB), SN比=45dB以上, 歪率=2%以内 (1,000Hz, 0dBm録音時), 録音バイアス周波数=100

kHz, 使用半導体=11Si・Tr, 18D, 使用IC=2コ, 外形寸法=375(W) $\times$ 160(H) $\times$ 287(D)mm 重量=7.84kg. ¥49,500

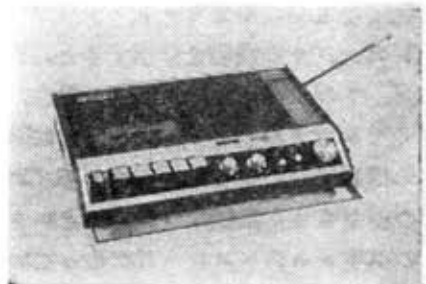
## 7. デュアル・キャプスタン・カセット・デッキ 〈ソニー TC-2200型〉



ヘッド周辺部を2コのキャプスタン(デュアル・キャプスタン)と、2コのピンチ・ローラーで両側から囲い込んで外部からの影響を排除とともに、テープの走行を安定させている。このため、ワウ・フラッター値は0.1%という、ステレオ・カセット・デッキでは稀有の性能が実現されている。そのほかフェライト・ヘッド、低雑音FETの採用によって、周波数特性、SN比などの諸特性は従来のカセット・デッキにみられない高い水準を示している。

[おもな規格] 消費電力=12W, 使用半導体=2FET, 16Tr, 5D, 録音方式=4トラック2チャンネル・ステレオ, 消去方式=交流方式, 一時停止=ポーズ・ボタン(ロック), SN比=49dB, 総合歪率=2%, 周波数特性=20~18,000Hz(高性能テープ使用時), 20~15,000Hz(一般用テープ使用時). ¥44,800

## 8. ラジオ・カセット・コーダー 〈ソニー CF-1300型〉



# 新製品紹介

同社のエレクトレット・コンデンサー・マイクを内蔵し、外部マイク、ライン入力、FM/AMラジオの4通りの録音ができる。ラジオ録音中のスピーカー・モニターの音量・音質を自由に調節できること、再生中レビュー・ボタンを押してワンタッチで反覆再生ができることが大きな特徴になっている。FMワイヤレス・マイクを使えばワイヤレス録音ができるし、エンド・アラーム装置つきである。

【おもな規格】 使用半導体=11C, 13Tr, 1FET, 10D, トラック型式=モノラル2トラック1チャンネル, スピーカー=10cm丸型, 最大出力=1.5W, 周波数特性=50~10,000Hz, 入力ジャック=マイクロホン・インピーダンス 600Ω, AUX 入力ジャック・インピーダンス 100kΩ, 外形寸法=287(W)×62(H)×217(D)mm, 重量=3.2kg。 ¥27,800

## 9. FM/AM ラジオつきカセット・テープ・レコーダー 《シャープ RD-416J》



グランプリ・カセットFMという名前をもつこのカセット・テープ・レコーダーの機能を分類すると、再生、ラジオ受信、拡声装置、録音、ミキシング録音の5部門をさらに24の用途に分類することができる。「24の顔をもった機能派マシン」というのがキャッチ・フレーズになってい

る。これだけ多用途な機械になると操作上の繁雑さが気になることがあるが、この RD-416J はエンド・アラーム、内蔵マイク、3電源、スロット・ローディング・カセット・ホルダー、スライド・ボリュームをはじめ、ツマミ、ダイヤル、レベル・メーターにいたるまで最大の配慮がなれているとあってよい。外形寸法は 20(H)×30.7(W)×8.3(D)cm, 重量 2.9kg。 ¥32,000

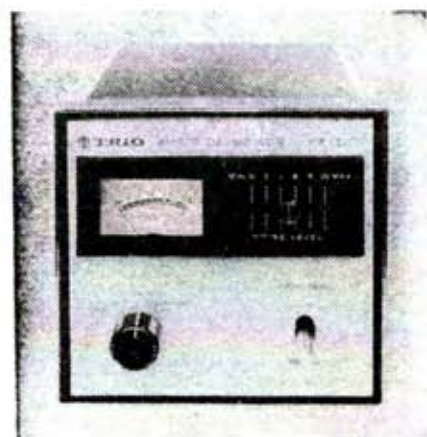
## 10. オート・ストップ・カセット・レコーダー 《アイワ TP-750》



このオート・ストップ機構は自動カセット・インジェクト+自動電源ストップであり、電源は AC, 電池, カー・バッテリーの3電源方式となっているので、いつでも、どこでも電源が確保できる。OTL 回路のソリッド・ステート・アンプと 120×80mm スピーカーにより、最大出力 1.5W の迫力あるハイファイ音が再生される。録音レベル調整は、機械がすべて自動的におこなう ALC 方式なので、録音ミスがなく、あわせて誤消去防止装置も内蔵されている。外形寸法 280×70×196mm, 重量 2.2kg。発売は11月1日。 ¥18,500

## 11. オーディオ・デノイザー 《トリオ KF-6011 型》

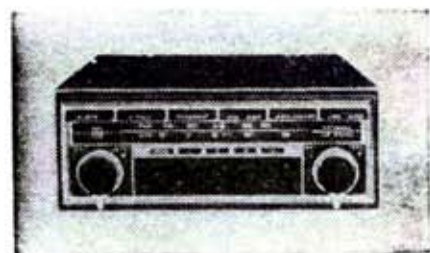
オーディオ・デノイザーというのは、信号音を劣化させずに雑音だけを減少させる特殊なオーディオ機器のことで、プロ用としてレコードの製作過程などに主に用いられている。12月に発売されるトリオのKF-6011



は手頃な値段で入手でき、各種オーディオ機器の雑音除去に大きな効果がある。

耳につきやすい高域のヒス、ノイズを含むプログラム・ソースの S/N 改善をはじめ、おもにテープ・レコーダーの再生音に含まれるテープ・ヒス、FM チューナーの雑音、テープからテープへのダビング時など、幅広い機能をもつ。 ¥19,800

## 12. AM/FM マルチつきカー・ステレオ 《ナショナル CQ-853D》



カー・ステレオの普及については今さらいう必要もないが、松下電器から発売された CQ-853D は、カー・ステレオに AM ラジオ、FM ラジオを同時に組み込んだ新製品として注目される。カー・ステレオからカー・ラジオ部への切替えは、テープの抜き差しで自動的にスイッチが切り替わり、ラジオの選局はプッシュボタンによる自動選局方式である。

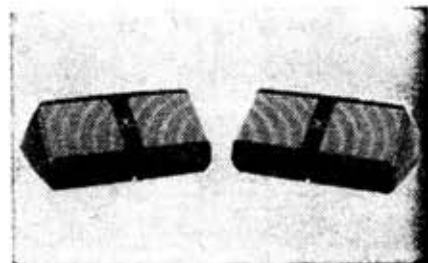
【規格】 電源・電圧=DC13.2V (11V~16V) ⊖アース, 最大出力=7W 以上×2 (4Ω時), 出力インピーダンス=4Ω~8Ω, 使用半導体=37

# 新製品紹介

Tr, 18D, 6バリスタ, 寸法=214(W)×82(H)×204(L)mm, 重量=4.7kg, ¥78,500

## 13. カー・ステレオ用スピーカー・システム

〈ナショナル CJ-85SD〉



10月1日発売の CQ-853D とのコンビネーションを考慮して開発したものの、一つのスピーカー・ボックスにハイ・コンプライアンス・スピーカーと UF コーン・スピーカーの2種類がセットされているので、低音が充分強調され、迫力のある、きめのこまかい音が再現される。スピーカー・ボックスの底ぶたが、簡単に穴のあくようになっていて、リアー・トレイに穴をあけ、トランクルームを音響ボックスとして利用する方法もある。

[規格] 形式=密閉型, 許容入力=10W, 入力インピーダンス=8Ω, キャビネット=耐熱 ABS 樹脂, 外形寸法=125(H)×301(W)×233(L)mm, 重量=1.850g, ¥11,700

## 14. ビックアップ・カートリッジ/シェル・マウント

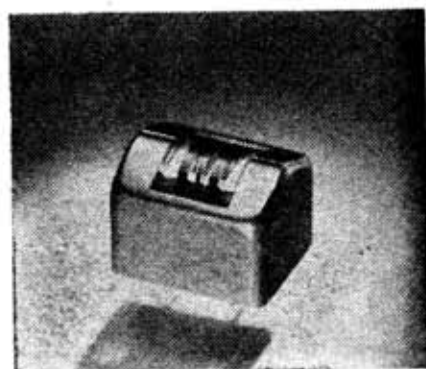


## 〈パイオニア PC-20-LS〉

最近のハイファイ・コンポーネントの伸長とともに、ユニット交換によって手軽に音のグレード・アップやバリエーションをはかるのがオーディオ・マニアの楽しみのひとつになっている。パイオニアでは同社の高級カートリッジ PC-20 をヘッド・シェルにマウントし、さらに周波数特性などの技術実測データをそなえたユニットを発売した。ケースはパイオニア・ステレオ・プレーヤーでおなじみのウォルナット天然木でできている。

[おもな規格] 型式=高級ムービング・マグネット型, 針=パイオニア PN-20 0.5mil 円形ダイヤモンド針, 周波数特性=10~25,000Hz, 出力電圧=2.0~3.0mV, チャンネル・セパレーション=25dB 以上 (1kHz), 17dB 以上 (100~10,000Hz) ¥12,500

## 15. Glass & X'tal ferite head (G



## X-ヘッド)

さきにクロスフィールド・ヘッドを開発したアカイが、今度はガラスの支持体と単結晶のクリスタル・フェライトを使用したGX-ヘッドを世界に先がけて完成させた。おもな特徴を列記すると、

1. 材質の硬度が非常に高いので、磨耗がほとんどなく、耐久性は従来のものに比べて100倍以上、15万時間以上の連続使用に耐える。
2. 500kHz で3%以下という低歪率で録音でき、従来のもの2倍の録音特性をもっている。
3. 適切な磁気特性をもつ材質と、ギャップ幅・深さの選び方(フォーカス・フィールド)で、クロス・フィールドをしのぐ周波数特性をもっている。
4. 一般のヘッドに比べて、S/Nは2~3dBよくなっている。
5. 低域(20~200Hz)での澄んだ再生音が得られる。

### ■今月号でとりあげた新製品の問い合わせ先

日本ビクター (株) PR 本部<sup>1</sup>  
東京都中央区日本橋本町4-1-1  
(ビクタービル) TEL (03) 241-7811

赤井商事 (株)<sup>2, 6, 15</sup>  
東京都大田区東糞谷2-12-14  
TEL (03) 741-1426

パイオニア (株) 宣伝部<sup>3, 14</sup>  
東京都大田区大森西4-15-5  
TEL (03) 763-2111

トリオ (株) 広報部<sup>4, 11</sup>  
東京都渋谷区渋谷1-6-5  
TEL (03) 400-7171

(株) ナポレックス<sup>5</sup>  
東京都新宿区錦筒町1(水落ビル)  
TEL (03) 269-6095

ソニー (株) 広報室<sup>7, 8</sup>  
東京都品川区北品川6-7-35  
TEL (03) 442-5111

シャープ (株) 宣伝本部広報課<sup>9</sup>

大阪市阿倍野区長池町22-22  
TEL (06) 621-1221  
東京事務所広報係  
TEL (03) 253-5111

アイワ (株) 宣伝部<sup>10</sup>  
東京都千代田区外神田5-2-3  
TEL (03) 833-1531

松下通信工業 (株) 社長室報道課<sup>12, 13</sup>  
神奈川県横浜市港北区綱島町880  
TEL (045) 531-1231